日本学術会議主催学術フォーラム

洋上風力発電開発のあり方

～地質・地盤リスク対応と協働の観点から～

令和８年

12月15日（火）

14:20～18:00

参加費無料
ハイブリッド開催

会 場 日本学術会議講堂
東京都港区六本木 7-22-34

日本において洋上風力発電には大きな期待が寄せられており、海洋再エネ整備法の制定や政府による各種方針の下で、開発は進展している。しかしながら、現在いくつかの重要な課題に直面している。第一に、海域の構造的特性に起因する課題である。欧州に多く見られる非活動的な大陸縁辺域とは異なり、日本は地震・火山活動が活発な島弧・陸弧に位置しており、活動的縁辺域特有の地質・地盤リスクへの対応が不可欠である。第 25 期においては、これらの課題を踏まえ、地質・地盤災害リスク認知の必要性、体系的ガイドライン整備の必要性、海底地質データの利活用、ならびに人材育成および産学官連携の重要性について見解を公表した。さらに第 26 期においては、安全・安心を前提とした持続可能な開発・運用の実現に向けたガイドラインに関する見解を公表した。加えて、地域社会との協働の在り方も重要な論点である。本学術フォーラムでは、これら二つの見解の内容を紹介するとともに、パネルディスカッションを通じて地質・地盤リスクの軽減の重要性、地域連携の課題、海外の動向を含めた議論を行い、洋上風力発電の現状と課題について広く社会の理解を深めることを目的とする。

お申込み https://form.scj.go.jp/c9e4d7a1-1215.html

申込締切 12 月 10 日（木） 事前参加登録をお願いします。

主催 日本学術会議

後援 IUGS（国際地質科学連合）、公益社団法人日本地球惑星科学連合、
公益社団法人地盤工学会、公益社団法人物理探査学会、海底地質リスク評価研究会、
International Consortium on Landslides、国立台湾大学海洋研究所、
公益社団法人土木学会（予定）、一般社団法人日本風力エネルギー学会、
一般社団法人環境情報科学センター、公益財団法人日本工学アカデミー、
山口大学地域レジリエンス研究センター

お問合せ 日本学術会議事務局学術フォーラム担当（TEL 03-3403-6289）

日本学術会議主催学術フォーラム

洋上風力発電開発のあり方

～地質・地盤リスク対応と協働の観点から～

▶コーディネーター

大久保　泰邦	（日本学術会議第 26 期連携会員／地熱技術開発株式会社探査部研究主幹）

▶司会

大野　恵美	（日本学術会議第 26 期連携会員／株式会社ＩＨＩ技術理事・技術戦略室）

▶スケジュール

14:20 ～ 14:30	**趣旨説明**
	大久保　泰邦 （日本学術会議第 26 期連携会員／地熱技術開発株式会社探査部研究主幹）
14:30 ～ 15:10	講演 **『セントラル調査における地質・地盤調査』**
	岡田　和也 （独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構再生可能エネルギー事業本部洋上風力事業部主席研究員）
15:10 ～ 15:50	講演 **『海底域の地質・地盤災害リスクの評価予測と予防保全対策』**
	佐々　真志 （国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所地盤研究領域動土質研究グループ長）
15:50 ～ 16:30	講演 **『台湾における洋上風力ガイドラインについて』**
	川村　喜一郎 （日本学術会議第 26 期特任連携会員／山口大学大学院創成科学研究科教授）
16:30 ～ 16:50	**休憩**
16:50 ～ 17:50	**パネルディスカッション** テーマ：**『今後の洋上風力発電開発のあり方』**
	司　会
	岩城　智香子 （日本学術会議第 26 期連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監／東京科学大学特任教授）
	パネラー
	竹内　彩乃 （東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）
	野村　英雄 （基礎地盤コンサルタンツ株式会社代表取締役社長）
	佐々　真志 （国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所地盤研究領域動土質研究グループ長）
	岡田　和也 （独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構再生可能エネルギー事業本部洋上風力事業部主席研究員）
	川村　喜一郎 （日本学術会議第 26 期連携会員（特任）／山口大学大学院創成科学研究科教授）
17:50 ～ 18:00	**閉会の挨拶**
	岩城　智香子 （日本学術会議第 26 期連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監／東京科学大学特任教授）
18:00	**閉　会**